



Japan Water Forum

日本水フォーラム

# 特定非営利活動法人日本水フォーラム 令和5年度 評議会

## 《 議 事 次 第 》

日 時：令和5年11月16日(木)16時~17時(開場15時30分)

場 所：鉄鋼会館

1. 開会のご挨拶
2. 日本水フォーラム活動報告
3. 評議員による評議 ※各位 約3分を予定

## 国連水会議（2023年3月22-24日、ニューヨーク国連本部）

- ・SDG6を始めとする水関連国際目標の達成に向けた行動を加速化するため、世界的な水危機への認識を高め、国際的に合意された水関連の目標とターゲットの達成のための協調行動を決定するために開催（1977年のハイレベル水会議以来、約半世紀ぶり）
- ・構成：全体会合、テーマ別相互対話、サイドイベント、特別セッション、展示等

## 【テーマ別相互対話】



### ・APWF事務局による、テーマ別相互対話③「気候・レジリエンス・環境のための水」におけるステートメントの発信

- ・非政府組織がステートメントの機会を得るのは狭き門である中、500以上の申請の中から、代表5機関として選出。
- ・さらに、相互対話③の会合中は、各国からのステートメント発信が優先された中、非政府組織で唯一ステートメントを発信。



セッションの  
動画はこちら

## 【サイドイベント】



### (1) APWF事務局と国土交通省、及びAPWFメンバー機関等による、「水レジリエントで、持続可能で包摂的なアジア太平洋地域の道筋」の開催

- ・「熊本宣言」を踏まえ、気候、強靭性、環境に関する水の安全保障の課題に対処する方策を議論。
- ・日本、タジキスタン、インドネシア、インドの政府代表が、行動の具体事例と自発的なコミットメントを紹介。
- ・続いて、APWF主要メンバー（ADB、ESCAP、ユネスコ等）によるパネルディスカッションを実施。政策、投資及びパートナーシップの観点から解決策を提示し、行動の加速化に向けた提言を発信。

### (2) NoWNETによる 「SDG6と気候変動対策の達成を牽引する官民 パートナーシップの推進」の開催



NoWNETメンバー期間等による議論

- ・気候変動対策、とりわけ緩和策について、持続可能性等に関する課題への対処方策について、議論を実施。
- ・欧州諸国、日本、韓国等のスピーカーからは、各国の優れた事例や取組みを共有。
- ・JWFからは、内閣官房水循環政策本部事務局が着手した企業の健全な水循環の取組みをサポートする官民連携事例等を紹介。

### (3) ユース水フォーラム及びADB等の関係機関※による 「ユースセッション：ローカルな活動で、グローバルな影響力を。 持続可能な水管理のための世代間パートナーシップの構築」の開催

※ユース活動に関係する国際機関、自治体、開発銀行、政府機関、国際NGO



満員となったセッション会場



高校生のユースセッションへの参加

- ・世代を超えて水問題を解決するため、ユース世代の意義ある参画について協議し、取組み事例を紹介。
- ・スピーカーとして、計13名が参加。(衆議院議員上川陽子氏、アジア開発銀行のウム局長、熊本市の大西市長等)
- ・日本の高校生(4名)は、自らの水に関する活動や研究について発表。
- ・本イベントを通じて、若者の参画や新しいアイデアの重要性、世代を超えて協力し水問題の解決策を見つけることの必要性などを共有。

### ■ JWFによる、「水行動アジェンダ」の提出



JWFが提出した「水行動アジェンダ」はこちら

- ・国連が、政府及び非政府組織の各コミットを集約。
- ・JWFから、熊本宣言を踏まえ、APWFネットワークを活用した取組み能力開発に関する自主行動を提出。

### (4) 日本水フォーラムによる 「ジャパンレセプション - 未来のための水の持続可能性」の開催



日本の高校生による発表

- ・世代を超えた取組みの重要性の認識を深め、幅広い関係者間のネットワークを広げる機会を提供。
- ・並行して、日本水フォーラムの活動や成果をポスターや動画を用いて展示、紹介。

### ■ストックホルム世界水週間2023

#### アジア・太平洋フォーカスセッションの共催(8月20-24日)

- ・今年のテーマは「変化の種:水に対して賢明な社会を構築するための革新的解決策」
- ・APWF事務局は、APWFメンバー・パートナー機関と次の5つのセッションを共催。
- ・なお、セッションの開催においては、インドネシア公共事業・住宅省バスキ大臣等に関会挨拶及び議論にもご参加いただいた。

#### < APWF事務局が共催セッション >

##### ① 「水・文化・イノベーションネクサスを通じた地域レジリエンスの向上」

共催: APWF、ユネスコマルチセクター東アジア局、アジア開発銀行 (ADB)、  
世界水パートナーシップ (GWP) 中央アジア、オーストラリア・グリフィス大学国際水センター (IWC)  
▶ 総合地球環境学研究所・琉球大学の新城竜一先生が琉球地域の事例を紹介

##### ② 「聖杯の探索 Quest for the Holy Grail : 水への投資を加速する」

共催: ADB, APWF, OECD, 水イクイティ

##### ③ 「気候変動への適応 水ガバナンスの革新的アプローチ」

共催: APWF、国連ハビタット、ADB、国際水管理機関 (IWMI)、IWC、韓国水フォーラム、ウォーター・インテグリティ・ネットワーク  
▶ 国交省河川計画課国際室が日本の事例を紹介

##### ④ 「加速化のための協働: 未来に焦点を当てた水の安全保障」

共催: ADB, APWF, GWP本部, Imagine H2O, メコン流域協議会事務局

##### ⑤ 「Breaking with Business as Usual: Sanitation Innovations in the Asia-Pacific 旧態依然から抜け出す; アジア太平洋地域における衛生イノベーション」

共催: 日本サニテーションコンソーシアム、APWF、ADB、ビル・メリンダ・ゲーツ財団、リクシル SATO



### ■ UNFCCC COP28

#### : サイドイベント「気候レジリエンスに向けた水・食料・エネルギーネクサス」を主催予定(12月11日)

共催: スtockホルム国際水機関 (SIWI) と、ラムサール条約事務局等

### JWFファンド

水と衛生に関するプロジェクトに対し、1プロジェクトあたり1,500ドルを上限とした資金助成を実施。

#### (1) JWFファンド2022/23の実施

- ・2022年は、途上国4カ国5件に支援。完了。
- ・2023年は、途上国4カ国5件。現地活動開始。

#### (2) 過去のJWFファンドプロジェクトのフォローアップ調査

- ・JWFF2020 の施設3件について、住民の衛生習慣や意識の変化等とともに調査。施設は良好に維持され、手洗い等の習慣の継続を確認。
- ・現在、JWFF2021の2件を調査中。



生活用水源の整備  
(JWFファンド2022、カメルーン)



小学校への手洗い所設置  
(JWFファンド2022、タンザニア)

### 4°Cアクアプログラム

バングラデシュにおいて、女性や子どものための雨水貯留システムを設置

- ・2022年度は完了。  
計40世帯に雨水貯留タンクを設置。
- ・現在、アクアプログラム2023を実施。  
参加世帯数は40世帯を開始。  
当事業地での実施は7年目。



アクアプログラム2022  
(受益者と雨水貯留システムAMAMIZU)

### ダルビッシュ有 水基金

#### (1) 第16号プロジェクト

- ・ジミレク村(ネパール)における給水プロジェクトの施工実施中

#### (2) 第13号プロジェクトフォローアップ

- ・過去に設置した施設について、状況把握を実施中



ダルビッシュ有 水基金 第16号  
(貯水槽補修、ポンプ送水のための太陽電池パネル設置状況)

### 京都世界水大賞 2024

- ・第10回世界水フォーラム(2024年5月)での授賞式に向けて、京都市、世界水会議との共催。公募を実施。
- ・68件の応募。現在審査中。

※ユース世代：高校生を中心とした15～18歳

## (1) 「水未来会議2023」世代を超えて考える水問題の未来

- 日時：2023年2月4日(土)
- 場所：内田洋行 新川本社 ユビキタス協創広場 CANVAS、オンライン
- 参加者：対面及びオンライン合わせて、約200名

- ・ユース世代の動画応募者の交流会として、また、世代間での連携と、水と他分野の関わりについて語り合う機会として開催。
- ・衆議院議員 上川陽子氏による基調講演の後、応募作品の発表や、パネルディスカッションを行い、「水未来会議からのメッセージ2023」を取りまとめた。



(未来会議2023)パネルディスカッションの様子



開催報告はこちら

## (2) 「国連水会議2023」サイドイベント(前出)

## (3) 「ユース水フォーラムアジア」

- 日時：2023年11月11日(土)
- 場所：熊本市 ホテルキャッスル
- 参加者：韓国・インドネシア・日本の高校生、ADB等
- 対面：約100名（動画配信の準備中）

- ・2022年4月の「第4回アジア・太平洋水サミット」、2023年3月の「国連水会議」に続き、日本と海外の高校生が水に関する取組を発表・意見交換等する場として開催。
- ・発表をとおして共有した各国の課題や取組をもとに、世界の水問題解決のため、互いに協力できることなどについて、専門家を交え話し合った。




## 開催概要

- 日時：2024年5月18-24日
- 開催地：インドネシア・バリ
- 主催：世界水会議(WWC)、インドネシア共和国政府
- テーマ：繁栄を共有するための水 (Water for Shared Prosperity)
- 主要プロセス：3つのプロセス(地域別、テーマ別、政治)

## 1. 地域別プロセスへの参画

多様な利害関係者と協議しながら、各地域特有の水課題に対する解決策、解決に至るまでの施策の取り組みポイントや突破口を提示。

### (1) アジア・太平洋地域プロセス 全体のコーディネート

- ・APWF事務局として、アジア水カOUNシル(AWC)とともに、アジア太平洋地域のサブ地域※全体をコーディネーターとして、とりまとめを行う予定。

※ 北東アジア、中央アジア、東南アジア、南アジア、オセアニア/太平洋島嶼国

### (2) 北東アジアサブリージョナルプロセス(日・中・韓)のコーディネート

- ・JWFとして、北東アジア地域における議題「災害リスク管理」及び「水と文化」について、レポート、及び、セッションのとりまとめ等を実施

## 2. テーマ別プロセスへの参画

- ① 4D (利害関係者の積極的な関与と一般市民の参加確保)  
:トピックコーディネーションメンバー
- ② 5E (水危機・水災害を予防・克服し、気候変動に対するレジリエンスを強化するための資金の確保・増額):サブトピックコーディネーター



地域別プロセスに関する署名式

## 3. JAPAN Pavilion 出展

- ・水に関連する日本の技術と経験を官民一体となって発信。
- ・パネル展示、プレゼンテーション、イベント等を開催予定。

## 4. 「京都世界水大賞2024」授賞式の開催



前回(京都世界水大賞2022)の様子

主催：京都市、WWC、  
日本水フォーラム

受賞団体：プラガッティ  
(インド、南オリッサ州  
コラプット地区)